

以下の記載は、表題の診療ガイドラインから漢方製剤に関する記述を抽出したものです。診療において漢方製剤を使用される場合には、必ず、ガイドライン全体をお読みになり、その位置づけを正しく理解された上で行ってください。

ガイドラインのバージョンは最新のもののみを掲載しています。改定がなされていないガイドラインは、そのまま掲載しています。このガイドラインと其中的漢方の記載を、診療の参考にすべきかどうかの判断は、使用者の責任で行ってください。

2016 年版 心臓サルコイドーシスの診療ガイドライン

厚生労働省難治性疾患政策研究事業「特発性心筋症に関する調査研究」班（班長：寺崎文生 大阪医科大学医学教育センター・循環器内科）

https://www.j-circ.or.jp/cms/wp-content/uploads/2020/02/JCS2016_terasaki_h.pdf

Minds 掲載 無

■1 漢方薬

疾患：

サルコイドーシス

引用など：

村井政史，山口哲生，三瀧忠道，ほか．漢方治療が奏効した全身症状を伴うサルコイドーシスの 1 例．*日本呼吸器学会誌* 2012; 1: 9-13.

有効性に関する記載ないしその要約：

『サルコイドーシスの治療の全身症状に対する治療の項に、下記の記載がある。

『サルコイドーシスでは痛み、疲れ、息切れなどの臓器非特異的全身症状を呈する例が多いことが知られており、しばしば全身症状が患者にとっての最大の主訴となる。これに対する十分な治療法は確立されていないが、漢方薬や大量ステロイドが有効な例が日常臨床で遭遇される。』